

図書館だより

開館時間(共通) 9時～17時30分

☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

☎ 葦山図書館 ☎ 055-949-8605

URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般

【中央】
【葦山】



財布は踊る
原田ひ香／著
新潮社

夢を実現したい専業主婦のみづほ。怪しげな仕事を転々とする文夫。今より少しお金がほしい人たち。『三千円の使いかた』の著者の最新作は、『お金のつくりかた』小説。

一般

【中央】
【葦山】



その本は
又吉直樹・ヨシタケシンスケ／著
ポプラ社

王様にめづらしい本の話をするために旅に出た二人の男。二人はたくさんの本を持ち帰り、夜ごと王様に語った。笑えて泣けて胸を打たれる、本にまつわる物語。

一般

【葦山】



愛という名の切り札
谷川直子／著
朝日新聞出版

それが当たり前だと結婚した百合子。心変わりを理由に離婚を迫られる。非婚を選ぶ香奈。事実婚で愛を貫く理比人。結婚制度の中で揺れる愛と男女の姿を描く小説。

一般

【中央】



親父の納棺
柳瀬博一／著
幻冬舎

面会も電話での会話もできないままこの世を去った父。納棺師の女性に声を掛けられ、亡くなった父の着替えを手伝った。コロナ禍で親の死に向き合ったノンフィクション。

新着本コーナーから

- 一般 終活中毒
- 一般 殺人者の白い檻
- 一般 ウクライナにいたら戦争が始まった
- 一般 きときと夫婦旅
- 一般 嫌いなら呼ぶなよ
- 一般 ルポ 誰が国語力を殺すのか
- 児童 なんで勉強するんだらう？

- 秋吉理香子／著【中央】
- 長岡弘樹／著【中央】
- 松岡圭祐／著【葦山】
- 柳月美智子／著【中央】
- 綿矢りさ／著【葦山】
- 石井光太／著【葦山】
- 齋藤孝／著【葦山】

10月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	③	4	5	6	7	☆
9	⑩	11	12	13	14	15
16	⑰	18	⑱	☆	21	☆
23	⑳	25	26	27	◇	29
30	㉑					

○ 中央休館日 □ 葦山休館日
◇ 両館休館日 ☆ おはなし会

10月のおはなし会

中央図書館 8日(土) 11時～
葦山図書館 8日(土) 11時～
22日(土) 11時～
※事前申し込み不要
くぬぎ会館こども広場
20日(木) 10時10分～
※予約制 ☎ 0558-76-1346

お知らせ

雑誌の無料配布

保存期間の過ぎた雑誌を無料配布します。

とき／10月29日(土)～11月6日(日)の各館開館日
9時～17時30分

- 図書館によって雑誌の種類が異なります。
- 袋などの入れ物をお持ちください。
- なくなり次第終了します。



文化財通信

その208

鎌倉時代だけではない！ 伊豆の国市各所に散らばる至宝

第7回 葦山中学区〔その1〕

☎ 文化財課 ☎ 055-948-1428

4月号から連載がスタートした「鎌倉時代だけではない！伊豆の国市各所に散らばる至宝」もいよいよラストシーズンとなります。今月号からは、3回にわたって葦山中学区の遺跡をご紹介します。

葦山中学区には、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で活躍している北条時政の館があった北条氏邸跡(円成寺跡)や、時政が建立した願成就院など、鎌倉時代の遺跡が数多く存在します。これらの遺跡は昔から知られていましたが、今回の大河ドラマでより多くの人に知られることになったかと思えます。

今回は皆さんの良く知る鎌倉時代から室町時代へと変わっていった伊豆の国市の様子について、国指定史跡である伝堀越御所跡の出土遺物を中心にみていきたいと思います。



▲伝堀越御所跡から見つかった池跡

ような状態になっていますが、かつては室町幕府8代将軍足利義政の兄である政知が拠点を構えた場所でした。

政知は、室町幕府に抵抗している古河公方足利氏の鎮圧を目的として、京都から鎌倉を目指して入りました。しかし、抵抗を受けて鎌倉に入ることができず、長祿2年(1458)に、この地に拠点を置くことになりました。結果、政知は「堀越公方」と呼ばれるようになり、ここに「堀越御所」が誕生したのです。

伝堀越御所跡からは、遺水(導水施設)を伴う大規模な池跡や井戸跡、区画溝などの遺構が見つかっており、それらと共に出土した土器や陶



▲伝堀越御所跡から見つかった陶磁器

※伊豆長岡庁舎1階ロビーで、葦山中学区の遺跡から出土した遺物を展示しています。ぜひご覧ください。

磁器の多くは京の影響を強く受けているものです。香炉や石臼、茶碗などが出土していますが、当時あまり一般的ではなかった、お茶を飲むために使ったものだと思います。

これらは、堀越公方の暮らしぶりや室町幕府と伊豆のつながりを示す貴重な資料であり、伊豆の国市の至宝といえるでしょう。